

柏原山冬虫夏草採集記

山 西 元

昭和51年12月26日淡路昆虫研究会総会にて、筆者が30年も昔の既にかびのはえた様な、かびにまつわる冬虫夏草の採集談を話したところ、会長より要請があったので茲に簡単にその顛末を述べる。

時は、昭和22年8月の末、筆者が恩師旧洲本中学校、故松沢重太郎先生に従って、洲本市柏原山（標高569米）に学界の珍品本郷草を求めて登山した時の事である。そもそも本郷草は明治35年9月7日、三重県楠村字本郷で植松栄次郎氏によって世界で始めて発見され分類学者を驚かした世界的稀品で、わが淡路でも明治43年8月21日松沢先生によって柏原山にて発見され、淡路もその産地に加えられた。この日の登山はその後40年に近い歳月が流れ、殊に戦時中の山林の荒廢で果してかゝる稀品が温存されているか否かを確認するためであった。やがて頂上お堂裏の杉や縦の林に達し林叢内に厚く堆積した朽葉の間をさがすことし、漸く目指す本郷草の一株を発見、この時不図も同じ朽葉の間から未だ嘗て実物に接した事のない冬虫夏草の一種カメムシタケを発見、二重の幸運に恵まれ貴重な収穫を手にして下山した。

さて冬虫夏草は、冬は虫の姿で、夏は草に変身するという事で、かく名づけられたもので、そのからくりは主に冬虫夏草菌類や、不完全菌類に属するかび類が、ハチ、セミ、チョウ、ガ、カメムシ、クモ等の幼虫や蛹、成虫等に寄生し、やがて寄主を倒し夏になると虫の体から糸状か棍棒状の子実体を伸ばし、中から孢子を飛ばし繁殖する。この子実体を草と誤認したのである。

日本産の主な冬虫夏草は、クモタケ、セミタケ、カメムシタケ、トゲアリタケ等で、世界では150種もあり、中国では古来乾燥して不老長寿の靈薬として貴ばれた。



カメムシタケ
(一名 ミミカキタケ)

Cordyceps Nutans

寄主 クサギカメムシ

Halyomorpha brevis Walker

昭52・1・23